

氏名 田畑早智子

法科大学院等の在籍年次 2L

*このレポートは主としてこれからインターンシップに行くことを考えている人達に情報提供を行うことを目的とするものです。以下の項目について適宜行数を増やしながら書き込んでいってください。文字数及び頁数に制限はありません。

*このレポートは、記名で法学研究科のウェブサイトに掲載されます。もし氏名掲載を希望しない場合には、その旨をお知らせ下さい。

*重要情報についてはできる限り具体的に記載して下さい。また、後輩の方達に向けた率直なアドバイスをお願いいたします。

1 受入事務所と滞在期間

SAGA国際法律事務所

2018/2/5～2018/2/27

※2/5、2/27は出国、帰国の移動のみ

2 事務所の業務・構成・勤務条件及びインターンシップの内容等

【事務所の業務】

- ・ ミャンマーでの企業設立、清算のサポート
- ・ 法令翻訳

【構成】

日本人スタッフ（弁護士4名、事務・経理担当スタッフ）、ミャンマー人スタッフ（弁護士、翻訳家、事務）

計16名

※その他断続的に日本、ミャンマーからのインターン生が加わっていました

【勤務条件】

8：00出社、16：30退勤

昼休みは30分～1時間程度（本来は30分らしいのですが、あまり厳密には運用されていませんでした）

【行った業務、課外活動】

- ・ 現地法令（コンドミニウム法施行細則）の和訳、解説作成、チームでのプレゼン発表

- ・事務所マーケティング案の作成、実行（案に基づいたSNSのアカウント開設及び管理、YouTube動画作成）
- ・就業規則フォーマット（日本語版、英語版それぞれ）の内容確認、校正
- ・現地裁判例調査、解説作成
- ・新法令、通達等の調査
- ・法律に関連する新聞記事の翻訳
- ・工業団地、現地NPO法人施設、NGO事務所訪問
- ・事務所旅行（マレーシア・ペナン島）同行
- ・現地日系企業社員の方々との食事会参加

※その他休日を利用してヤンゴン市内、ゴールデンロック観光

3 宿舎及びその他の生活環境について

【滞在場所】

- ・事務所から徒歩10分程度の場所にある中グレードのホテル（Hotel Yangon Heritage）、客室は全部で15部屋程度（宿泊客はほぼ外国人）
- ・インターネットで検索、予約
- ・約10万円/3週間滞在
- ・朝食代込み、WiFiあり（通信はやや不安定）
- ・有料ランドリーサービスあり、ただし割高
- ・料金はチェックイン時に前払い制、現地通貨・ドル・クレジットカード支払いが選択可能
- ・スタッフとの会話は英語、非常に親切なスタッフでした

※一泊あたり約5,000円以上支払えば、設備面では不自由しないのではないかという感覚です

【その他】

- ・道路は車優先なので、右折車などに日本以上に注意する必要があります（数回轢かれかけました）。
- ・夜中に歩いていても特に身の危険を感じることはありませんでした（警察官も市内を巡回していました）が、やはり一人は避けるのが無難だと思います。
- ・野良犬がかなり多いです。もっとも、襲ってくるようなことは基本的になかったので、過度に警戒する必要はないかと思います。
- ・食料品はホテルの正面にある商業施設地下のスーパーマーケットで買っていました。その他、薬局、コンビニエンスストア（のようなもの）等、生活に必要な施設はヤンゴン市内に一定数ありました。市内中心部には巨大ショッピングモールもあり、予想以上に日用品

は手に入りやすい環境でした。

- ・食事は、何もなければ事務所近くのレストランや食堂に行ったり、テイクアウトしたりしていました。中華、エスニック系の他、カフェや日本食のレストランもありました。地元の人が日常的に使うような場所で食事するのであれば、一食300～400円程度が相場かなと思います。パクチーや香辛料が効いた味のものが多く、そういったものが苦手な方は少し食事選びに苦労するかもしれません。
- ・タクシー料金の相場が日本よりも安いので、移動はほぼタクシーで足りる（30分程度かかる場所でも700円～800円程度が相場）。料金は事前交渉制ですが、こちらが日本人とみると2、3割程度上の価格を提示してくることが多かったです。

4 出発に向けた準備等について

- ・ビザ申請が必要ですが、インターネット上からすぐに手続きできました。
- ・言わずもがなですが、渡航前の英語の学習は本当に重要です（自分は十分な準備ができなかったことを心底後悔しました）。
- ・日用品は現地調達できるものが多いです。
- ・予防接種（A型肝炎、狂犬病、腸チフス、破傷風）を一応受けたのですが、健康保険の適用対象外のため、かなり高額（私の場合8万円）になりました。

5 インターンシップに要した費用

- ・宿泊費；約10万円
- ・パスポート更新、ビザ発行料；約2万5千円
- ・海外保険；約1万2千円
- ・食費、交通費、雑費；約7万円
- ・予防接種；約8万円

- ・事務所旅行（航空費、宿泊費等）；約5万円

総計 約34万7千円

※ヤンゴンー関空往復旅費は凌霜会にご支援いただいたため除く

6 これからインターンに行く人達へのアドバイス等

私は今回が人生で初めての海外渡航で、当然外国人との交流もほぼしたことがなかったため、コミュニケーション面で大きな不安がありました。ミャンマー人の方々は総じてとても親切で、私のたどたどしい英語にも耳を傾けてくれました。業務に関しても共通することですが、このインターンを実りあるものにするためには、自分の感じていることやわからないことを誰かに伝えようと自ら動く姿勢が必要だと思います。そういった意欲さえ伝われば、お忙しいにも関わらず手を差し伸べてくださる方々ばかりだったので、特に後半はとても楽しめました。

ミャンマーに関して、十分な情報がなく、躊躇われる方もおられるかと思いますが、衛生環境こそ確かに日本の水準からは数段劣るものの、大きな不便や身の危険を感じることなく快適に過ごすことのできる街だったので、安心していただいいてよいかと思います。

7 インターンシップの有用性等に関する評価及び感想

外国、しかも東南アジアの発展途上国における法律実務を目の当たりにする機会は非常に希少ですが、今後とりわけ企業法務の分野でアジアの存在感は増すばかりであろうことを考えると、学生のうちにその実態を知っておくことで、法曹としての視野は格段に広がると思います。何かと忙しい中で、海外に滞在する一定期間を確保することは難しいことと思いますが、学生という身分だからこそ許される試行錯誤、そこから得られる学びというものもあるので、ぜひ積極的に検討していただきたいです。

個人的な感想としては、まず、海外での法律実務という未知の分野について、その一端を窺い知れたことで、弁護士としての働き方に対するイメージの幅が各段に広がりました。また、苦手意識のあった英語でのコミュニケーションに敢えて挑戦することを決め、無事最後までやり切ったことは、自分に対する自信にもなりました。そして、今回は他の同級生二人と一緒にインターンに参加したのですが、慣れない環境下で、協力しながら作業を進めることの難しさ、楽しさは、普段法科大学院で自習しているだけでは感じることもできないものでした。事務所の弁護士、事務員の方々、ミャンマー人スタッフ、その他現地で出会った人々の温かいご対応に救われながら、充実した三週間を過ごすことができ、本当に応募してよかったと感じています。